

With 通信

ごあいさつ

理事長 三好 恵里子

新年あけましておめでとうございます。

昨年を振り返るとウィズの大きな出来事は1.障害者基幹相談支援センターの開始、2.まつりを夏から秋に、開催場所の変更、3.記録システムの導入・変更です。

1は、ちょうせい広域障害者基幹相談支援センターとして茂原市・一宮町・睦沢町・白子町・長柄町・長南町の1市5町を対象に昨年10月から開始しました。開始してみて特定相談

(計画相談)と違うことは相談の幅が広く緊急性があるケースも多いこと、地域作りや相談支援専門員の育成の役割を担っていることです。さまざまな知識や情報が必要だと感じます。まだ始まったばかりですが、重要な役割を担わせていただいていることに感謝しながらさまざまな相談にのることができるように基幹としても法人としても成長していきたいと思います。

2は、これまで「夏まつり」を行っていましたが今までの夏とは違い、「体に悪い...」「もう夏に行うのは難しい...」との判断で秋に行うこととしました。場所も「じよい」で開催していたものを「民堵・EMU」の敷地を整備して変更しました。広い道路に面しているため通りがかりの方や近所の方など、より多くの方に参加していただけました。地域との繋がりが少しずつ広がってきたことを嬉しく感じています。

3は、手作業を少なくし時間を有効に使うための導入です。導入・変更時は労力が一次増しましたが、今は少しずつ慣れてきており、時間短縮につながっています。短縮された時間を利用者と向き合うことに使えればと思います。

日々、色々なことが変化しています。気候も技術も人の考え方も、時代と共に変化します。その変化に応じて私達自身が、法人が変化していかなければなりません。これからもさまざまな変化があると思います。変化を敏感に感じる力、感じたことに柔軟に積極的に対応する力をつけることが必要だと感じます。さあ、今年も心を研ぎ澄まして前を向いて歩いていこう！Let's walk with a smile!



今月号の内容

理事長 ごあいさつ

ちょうせい広域障害者 基幹相談支援センター

地域住民説明会

千葉県精神保健福祉事業 功労者健康福祉部長表彰

ウィズまつり

虐待防止研修報告

感染症委員会

外部研修

・長生きたまごプロジェクト

・医療観察法シンポジウム

・高次脳機能障害

活動報告

福祉のお仕事紹介

ちょうせい広域障害者基幹相談支援センター開所

「ちょうせい広域障害者基幹相談支援センター」が10月から始まりました。その直前に長生圏域では相談事業所1カ所閉鎖となり130件ものケースを相談支援事業所が集まって引き継ぎ先を決めることから活動が始まりました。基幹への相談は事業所探しのお手伝いから、虐待案件、困難ケースの助言など内容はさまざまです。私達の知識や技術を高めていく必要を感じています。相談以外にも相談支援専門員の横の繋がりや質を高めていくことも大きな役割です。ケース検討会も11月に開催しました。アイディアがたくさん出て、大勢で考えることの大切さを感じました。さまざまな活動を通して相談支援専門員が一人で悩むことや疲弊することがなく、協力しあえ、専門性を高め、相談支援専門員が増加する地域にしたいと思います。(秋葉)



地域住民説明会

2025年10月、本部周辺住民を対象にした法人説明会を開催しました。当日は法人の概要について説明した後、各事業所が行っている取り組みや役割について紹介しました。参加者の皆さんからは地域との関りについて前向きなご意見をいただき「地域でなにか活動を行う際には事前にポスティングで知らせてほしい」「ゴミ分別に注意してほしい」など具体的な声が寄せられました。

これまで法人と地域との繋がりが十分でなかった点を改めて感じる一方で、住民の皆さまが私たちの活動に理解を示してくださったことは大きな励みとなりました。今後は、草刈等の地域活動にも参加し、日頃から顔の見える関係づくりを進めていきたいと思います。今回の説明会では地域住民の方々が日常的に感じている疑問などを共有していただく機会にもなりました。このような対話を大切にし、信頼関係を深めながら地域の一員として、地域と共に歩む法人として、より良い環境づくりに取り組んでいきます。(三好優斗)

千葉県精神保健福祉事業功労者健康福祉部長表彰

この度理事長の三好が、NPO法人千葉県精神障害者自立支援事業協会より推薦を頂き、千葉県精神保健福祉事業功労者健康福祉部長賞を受賞いたしました。多年にわたり、理事長が精神保健福祉と向き合い活動してきた成果が評価されたものと思います。表彰式当日は、利用者もお祝いに駆け付けてくれました。利用者思いで行動力のある理事長のもとで活動する事ができていることは、職員にとっても価値のあるものだと思います。社会福祉法人ウィズが障害福祉、地域福祉の発展の一助になるよう理事長の背中を追ってがんばっていきたいと思います。（本良）



ウィズまつり



11月1日、EMU、民堵、民堵裏の空き地を会場として「ウィズまつり」を開催いたしました。当日は天候にも恵まれ、地域の皆様や利用者さん、ご家族、法人関係者の方々など、想定を上回る約100名様にご来場いただき、大変にぎやかな1日となりました。

会場では、輪投げ・ボウリング・射的・的当てなどのゲームコーナーが並び、子供から大人まで笑顔で楽しむ姿が見られました。飲食ブースでは焼き芋・もつ煮・フランクフルト・チュロスを販売し、温かい料理の香りが会場をさらに盛り上げました。また、各露店や準備には利用者のみなさんに携わっていただき、販売商品はほぼ完売と大変な盛況となりました。

さらに缶積み大会では子供から大人まで白熱した戦いが繰り広げられ、マジックショーでは驚きと歓声があふれました。

開催にあたり多大なるご協力を賜りました千葉県立茂原高等学校サッカー部、千葉県生涯大学校、茂原社会福祉協議会、茂原マジッククラブ、地域の皆様に厚く御礼を申し上げます。

バザー売上金の20,650円は、少額ではありますが全て茂原市社会福祉協議会、こども食堂すまいるステーションへ寄付させていただきました。(榎本)



利用者感想

久しぶりに仲間と集まれてよかったです。普段、やらないゲームもすることが出来て楽しかった。また次回も参加したいです。(ARUKU Sさん)

出店の販売に参加しました。お客様がとても多くて大変でしたが、他のお店も周れてとても楽しかったです。来年も参加したいです。(EMU Mさん)

バザーの物が安く買えて良かった。的当てで高得点を出せて、お菓子をたくさん貰えて嬉しかった。(じょい Yさん)

食べ物、飲み物がどれも美味しく、特にもつ煮が気に入り、おかわりもしました。(じょい Hさん)

研修報告

虐待防止研修

例年通り全職員を対象に虐待防止研修を行いました。研修前半では障害者を取り巻く歴史や虐待事例などを振り返ることで支援者としての役割や使命を再確認し、その上で虐待行為の種類など基礎的なことをおさらいしました。研修後半では普段の支援の中で感じている悩みや困りごとについてのグループワークを行いました。法人内の他事業所の職員と話すことで、普段のモヤモヤが少し軽くなつた他、人（或いは事業内容の違い）によって視点が違うことなど様々な気付きがあったと思います。より良い支援をする為に、普段から同じ職場内で頻繁に話し合う環境が必要だと考えています。

来年度に向けて、研修前半の基礎的な内容など新人研修と重なる内容はさらに省略し、全職員対象のものは普段の支援内容によりフォーカスするなどの工夫が必要だと感じました。（森岡俊）



参加者感想

障害のある方が過去に周りからどのような扱いを受けていたのか、なぜ虐待防止法が出来たのか経緯を知ることが出来ました。また、他事業所の職員の体験談をたくさん聞くことが出来て、自分とは違う見方や考え方等、事業所別の支援の仕方を知ることができ、普段の支援では見えていない支援内容を知ることが出来ました。いろいろな気づきがあり、学ぶことが多い研修でした。（鈴木）

この研修を受け、印象的なことは「自覚が無い」ということ。無意識に行っている支援が実は虐待かもしれないということです。呼称もそうですが、信頼関係が構築されたがゆえの難しさを感じました。個々の意識も大切ですが、支援はチームで行うためチームで意識を高め相談出来る環境作りが虐待防止に繋がると思いました。自身も気を引き締め日頃の業務にあたりたいと考えます。（秋葉）

感染症委員会

感染症にご注意を！自分で出来る対策もお願いします！

感染症委員会では、職員の感染症対策の向上を目指して、定期的に研修や訓練を行っています。9月には、「食中毒の予防と対策」の知識習得と「嘔吐時の汚染範囲の確認」をテーマに各事業所で研修訓練を行いました。食中毒の種類が沢山あり、種類ごとに対策の仕方が違う事を学べました。「汚染範囲が予想以上に広い（半径2.3m）ため、

「適切な処理方法や動線の確保などその場で考える必要がある事を実感した」等の職員の感想が寄せられました。

今年も、インフルエンザやコロナなどの感染症が流行をしてきています。基本的な事ですが大事な、手洗い・うがい・アルコール消毒・マスクをつける等の自分で出来る対策を行いつつ、みんなが笑顔で過ごせるウィズにしたいと思います！（羽根田）

引き続き、感染対策のご協力をお願いします



研修報告

長生きたまごプロジェクト

長生きたまごプロジェクト

集まれ！繋がれ！

福祉のWA！

11月14日に『第二回長生きたまごプロジェクト 集まれ！繋がれ！福祉のWA！』が開催されました。今回は、介護分野の講師が障害福祉サービスについて質問し、障害分野の講師が答えるという形式で講義が進められました。2007年に超高齢化社会を迎える時代に、障害福祉の現場でも介護保険への移行・併用という場面をよく見るようになっています。障害福祉サービス利用者は65歳以上になったら…？介護度が出なかったら…？そんな疑問が解決し、すぐにでも現場で活用できる知識を得ることが出来ました。

今回の研修は、講義のあと、参加者でグループワーク形式で情報と知識の交換を行いました。高齢者介護に携わっている方が多かったのですが、彼らもまた障害福祉サービスに対して未知の部分があったと話していたので、今回のプログラムでそれが少しでも払拭できればいいなと思いました。そして、これからそれが『福祉のWA』になるよう、尽力していきたいと思います。（田中）

医療観察法シンポジウム

医療観察法は、「心身の喪失や耗弱の状態で重大な事件を起こした人に対して、社会の安全を守りながら、その人自身の治療と社会復帰を支援すること」を目的とした法律です。2005年に施行され、20年が経ちました。それ以前は措置入院など一般の精神医療の枠組みで対応されてきましたが、施行後はより病気にフォーカスした治療中心のアプローチができるようになり、多職種チームによる社会復帰までの切れ目のない支援が特徴的です。

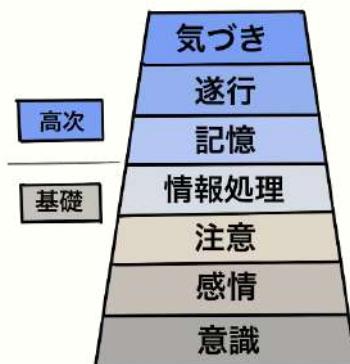
地域により受け入れ体制に大きな差があること、入院期間が長期化していることなどが現状の課題であると感じました。対象者自身にも苦労や責任を抱えてもらいながら地域生活を継続してもらうためには、早い時期から医療と地域が繋がること、地域支援をより充実させることが必要だと感じました。（吉田）

高次脳機能障害研修

このたび「高次脳機能障害支援者養成研修」を受講し、760分の講義と3日間の演習に取り組みました。講義では、高次脳機能障害の特徴や支援のポイントを基礎から実践まで学び、日頃の支援を見つめ直す良いきっかけとなりました。

演習では事例をもとにグループで話し合いながら、どのような関わりがその方の力になるのかを考えました。支援者同士で意見を交わすことで、新しい視点や気づきが生まれ、支援の幅が広がったと感じています。

最終日には、当事者とご家族のお話を直接伺い、発症から現在までの歩みや思いを知ることができました。生の声に触れ、支援の背景にある生活や気持ちを大切にすることの重みを改めて感じました。今回の学びを、からの支援にしっかり活かしていきたいと思います。（森岡飛鳥）



活動報告

調理プログラム じょい

じょいでは、毎週火曜日午前に調理実習を行っています。生活介護、生活訓練どちらの方も参加できます。じょいの昼食は、毎日専属の調理員が作ってくれますが、調理をやってみたい利用者さんの練習やお楽しみとして、その日のメニューに使う食材を切ったり、盛り付けを行ったりしています。また、じょいの畑で利用者さんと一緒に育てた野菜を調理するのも楽しみの一つとなっています。時間に余裕のある時は簡単なスイーツ（蒸しパン、ゼリー、チョコバナナなど）を作ることもあり、皆が参加しやすい様に工夫して楽しんでいます。（八田）



作業紹介ローソクシール貼り EMU

株式会社鳥居ローソク本舗様より受注している長さ6cm四角形のローソクの一面にシールを貼る作業です。水に浸してから空気が入らないように丁寧に貼り付けるため、集中力と根気が必要です。

最初はとても難しく、気泡が入ったりシールがズレたりと苦戦しましたが、利用者さん同士でコツを教え合ったり、仕上がりを確認し合ったりするうちに、みんなの手際がぐんと良くなりました。

個々の作業ながらも自然と協力の輪が広がり、作業は順調に進み、美しく整ったローソクが完成しています。（内山）



cafeあるく新作メニュー ARUKU

ほっと一息つきたい時にぴったりの新作「ほっとココア」がカフェメニューに仲間入りしました。一口飲むごとに、ココアの甘さが広がります。寒い日には心まで温めてくれます。トッピングのマシュマロを温かいうちに入れれば、ふわっと溶けていきます。電車の待ち時間や、忙しい日の気分転換にぜひ店内でゆっくりとお楽しみください。

ARUKUでは新メニューも利用者さんと一緒に考えます。自分で考えたアイディアが商品化し、お客様に召し上がっていただいた時の喜びは貴重な経験となっています。新茂原の駅前にお店がありますので、ぜひお気軽にお越しください。（小川）



活動報告

東京ドイツ村 ARUKU

今回も利用者さんにアンケートを取り場所決めをしましたが、昨年周り切れなかった東京ドイツ村に再度行く事が決まりました。

ドイツ村には11時頃着き、写真を撮った後は各グループに分かれて行動。昼食は各々外販売コーナーや店内のレストランで食べ、乗り物や小動物園でウサギやモルモットへの餌やり、季節の草花の鑑賞やショッピングなどを楽しむことが出来ました。

朝方ぐずついた空も不思議な事に旅行の間だけ天気が良く、送迎が全てが終わった後に激しい雨が降ってくるなど、天気も味方をしてくれた1日でした。参加者からは、「楽しく充実した1日を過ごせた」という感想を聞くことができました。（佐瀬）



フェスタTOGO EMU

10月5日東郷福祉センターにて行われた東郷地区自治会長主催のフェスタTOGO 2025へ参加させていただきました。フェスタTOGO 2025は地域の取り組みとしての防災、東郷地区の歴史として掩体壕、土器の説明展示など情報発行の他、地元農産物の販売、東中学吹奏楽部によるミニコンサート、シャボン玉ショーなどもあり会場は大いに盛り上がり、最後はbingo大会も行われ、こどもたちは大喜びしていました。

EMUは昼食用におにぎり、唐揚げ、おやつに海老煎餅を販売しました。とても好評で完売となり、ウィズのことも知つてもらえたと思います。これからも地域に溶け込み共に楽しんでいけるような事業所でありたいと思います。（高田）



野球観戦外出 ウィズ

8月30日、ZOZOマリンスタジアムへ行ってきました。夏の期間は18:00～試合開始となる為、夜の外出となりました。いつもとは雰囲気の違う外出に利用者はわくわくどきどき。球場に到着後応援グッズやグルメを堪能し、球場の熱気と歓声に圧倒されながらも、ファンの方と一緒にになって応援してきました。試合の途中で花火も打ちあがり夏の良い思い出になりました。（本良）



福祉のおしごとってどんなことをするの? ここでは福祉専門職員の活動を紹介します!

目標工賃達成指導員

利用者の工賃向上のために配置される職員で、新たな作業や取引先の獲得、作業単価の交渉、作業効率向上のための支援や環境整備等の役割を担っています。障がい福祉とビジネス双方の知識、スキルが大切だと思います。

EMUでは軽作業部門の契約増加や外作業部門の農福連携事業の参加、調理部門ではイベント参加による地域への周知や仕入れの工夫による利率確保、契約先増加の際の作業工程の工夫等を行っています。(村杉)

相談支援専門員

障害のある方やそのご家族が地域で自立した日常生活・社会生活を送るための生活をサポートする「福祉の案内人」です。障害のある方の生活全体に関わるため、ご本人の想いや希望に寄り添い、多職種チームで支援することで、地域社会の生活の質を向上させる一端を担えることに大きなやりがいがあります。一方で、様々な関係機関との調整や書類作成など、業務の幅広さや複雑さに大変さを感じることもあります。その中で障害をお持ちの方の人生に携わるとの自覚を持ちながら日々支援を続けたいと思います。(牧野)

事務

主な業務は福祉給付費の請求や各種申請、書類作成などです。職員が支援に集中できるよう環境を整え、現場の下支えをしています。仕事はパソコンに向かうだけではありません。就労事業所では事務作業の支援や就労のサポートなど、利用者さんと直接関わることもあります。事務職でありながら人の温かさに触れ、笑顔や成長を感じられる仕事です。(中村)



編集後記

あけましておめでとうございます。令和8年の幕開けとなる1月号を発行いたしました。本年も皆様にウィズでの日々の取り組みをお伝えできる広報誌作りに努めてまいります。皆様にとって温かく希望あふれる1年になりますように。(渡邊)

Thank you!

最後までご覧いただきありがとうございました。
これからを担う若い人材を求めていきます！
下記HPより詳細をご確認ください。



SHAKAIFUKUSHIHOJIN_WITH

社会福祉法人ウィズ本部
〒297-0016
千葉県茂原市木崎1300番地1
TEL : 0475-47-2600